

登録コード	FSC02500	開講年度	2026					
授業題目	感性計測特論					担当教員	上條 正義	
英文授業名	Advanced Kansei Measurement					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限		対象学生	修士課程学生
講義室	繊維10番講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】					⇔	【授業の達成目標】	
	26FSカ・繊維学							
	【専攻】基礎科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力、さらにそれを発展的に応用できる能力					⇔	基礎科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力、さらにそれを発展的に応用できる能力	
	【専攻】繊維科学に関連する学際・業際領域を切り拓く創造的能力					⇔	繊維科学に関連する学際・業際領域を切り拓く創造的能力	
	【専攻】専門分野において企画・管理等を行えるマネジメント能力					⇔	専門分野において企画・管理等を行えるマネジメント能力	
(2)授業の概要	製品と人間との関係性の一つである心地良さという現象を明らかにし、数理的に扱えることができれば、人の感性を活かした製品開発に寄与できる。そのために、人間の生物学的なしくみを理解し、感性情報の数理的な取扱いを学び、快適な製品が持つ基本特性とその生産方法に係る科学技術についての理解を深める。							
(3)授業計画	課題：感性価値創造のための感性計測を学ぶ ① 意識に上がらない刺激が心身に与える影響を計測 ② 情報の共有によって生み出される感性価値の計測評価 ③ 時間の共有によって生み出される感性価値の計測評価 ④ 場の共有によって生み出される感性価値の計測評価 ⑤ 快適性と快適感の計測 ⑥ 経験することによる心身反応計測 ⑦ 察するにかかわる感性計測 ⑧ 見えなかったものを見えるようにするための情報 ⑨ 心身反応に影響を与える情報提示方法 ⑩ 心身反応に影響を与える時間情報 ⑪ 心身反応に影響を与える場情報 ⑫ 快適感を誘導するための情報提示 ⑬ ストレスを低減するための刺激呈示方法 ⑭ 接触快適感の計測評価 など							
(4)成績評価の方法	毎回のレポート内容及び最終的なレポート内容によって評価する							
(5)成績評価の基準	秀： 授業の達成目標の水準から見て卓越している 優： 授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良： 授業の達成目標の水準よりやや上にある 可： 授業の達成目標の水準にある 不可（D）： 授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可（F）： 授業の達成目標の水準にない							
(6)事前事後学習の内容	授業での最終的な課題を実施するために、各授業で提示する資料に基づいて、自らの考えをブラシアップしてください。この授業は90時間の学修を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習で思考を深めてください。							
(7)履修上の注意	クラスメイトからの意見に耳を傾けて、他者の意見に対して、コメントできるように絶えず、準備してください							
(8)質問,相談への対応	授業時間のいつでも良いので質問してください							
(9)授業の形式	講義および課題に対しての発表と意見交換という形式で授業します							
(10)学生へのメッセージ	知識の記憶ではなく、知識を活用して感性価値が高いモノとは何か、それをどのように作り出すのかを絶えず考えて受講して欲しいと思います							
【教科書】	指定しない							
【参考書】	・ 現代社会における感性工学の役割 日本学術会議 人間と工学研究連絡委員会感性工学専門委員会、 http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-19-t1033-5.pdf							